

京都市

松ヶ崎 自治連合会 /

公益財団法人松ヶ崎立正会 (資料・展示参照)

宝が池から深泥池界隈の森を、農地と一体的に「**里山管理**」してきた地域。旧松ヶ崎村≡old コミュニティを継承した組織「立正会」は、**五山の送り火「妙・法」も管理**。尾根から南面の広くはこの地域の個人や立正会等地縁団体が所有している。自治連合会と一体となって、**伝統行事、文化を引き継ぎ**ながら、新しいコミュニティの活性化にも取り組む。松ヶ崎小学校を地域づくりの中心に進めた**エコ学区など取り組み**は、地域の森・池・川・里の環境問題に向き合い、**地域の里山や農環境、伝統文化を活かした総合的なまちづくり**へと繋げようとするもの。**工芸繊維大学と連携してまちづくりや環境学習などの取り組み**を継続している。シカの増加と森の激変、シイ林の大木化は、農業被害にくわえ、宝が池の森を裏山にもつ地域として、安全性の面で危機意識を強く抱いている。



公益財団法人  
国立京都  
国際会館

情報共有  
広報協力

活動  
連携

公益財団法人 京都市都市緑化協会 (資料・展示参照)

宝が池公園内において、2008年より**宝が池プレイパークの運営**、2011年より**こどもの楽園の管理**(指定管理)を行っている。子どもたちが自然の中で自由に遊びながら、**自然とのつき合い方を学び、生きる力を培っていく場**となるよう、幅広い年齢層のボランティアとともに多様な体験の機会を設けている。**四季を通じて宝が池の山や川を利用**しているが、その魅力がわずか2.3年で失われる姿を目の当たりにし、強い危機感から、2014年より大人向けに**シンポジウムや学習会を府立大学と共催で実施**。今の森の問題に向き合いつつ、歴史・文化と一体となった地域の自然の、昔・今・未来を見つめ、考え、行動につながる基礎知識と実践力をもつ**人材ぞだてをめざす**。また様々な人や組織がつながりによって、安心して遊べる森を取り戻し、里山公園としての魅力アップにつなげようとしている。**市民目線での情報収集、自動撮影カメラによる生きもの情報も記録**、試験的な**防鹿柵の設置**や、**苗木の補植、実生保護**など学習と連動させながら市民でも可能な具体策を試している。



宝が池  
シンポジウム  
2013.2014  
連続学習会  
共催

京都府立大学 森林科学科 < 田中先生・長島先生 >

宝が池に隣接する立地性も関係し、長年多くの研究者や学生が調査研究および実習フィールドとして森に入っている。現在も**複数の研究室で継続的な調査を実施中**。**シンポジウムや学習会もサポート**している。現在起こっている複雑な森の問題の要因を探るとともに、課題を抽出、再生の実践に向け**試験的な取り組みと調査(モニタリング)**も進めている。2008年より「**宝が池座談会**」を実施してきたが、その過程で生じた急激な森の変化に対し、2014年より「**宝が池シンポジウム**」および「**宝が池連続学習会**」を緑化協会と共催で開始。その中で調査・研究の成果を一般参加者に還元していくと同時に、多くの研究者からの問題提起の場、参加者からの意見収集の機会としてきた。併せて、宝が池プレイパーク活動への学生協力を継続し、フィールド管理や学生実習を通してその運営をサポートしている。



森林再生  
技術等連携  
協力

市民調査  
連携

シカ  
実態把握  
対策指導

京都宝の森をつくる会 (資料・展示参照)

学習会参加者やプレイパークスタッフなど、森の激変に危機感をもったメンバーによって発足。**幅広い年齢によって構成**されているのが特徴。精華大学の炭窯を借り、ナラ枯れ木や枯損木から**炭をつくる**取り組みを始め、**森の再生と資源循環**をめざす。また、宝が池の森で**市民調査**の手法を学びながら動植物の現状を**継続的に調査・記録**していく予定。



京都府立大学、京都学園大学、京都大学、精華大学同志社大学の学生も所属

京都工芸繊維大学 (展示参照)

まちづくり研究室

< 佐々木先生・土肥さん >  
2006年から松ヶ崎地域で小学校・地縁組織と協力しながら**調査や街づくり活動**を進めている。**小学校学校運営協議会にも関わり**、エコ学区の取り組み協力を機に、**子供たちと山の手入れ等の作業体験**にも携わる。**2014年「松ヶ崎山ろく景観プロジェクト実行委員会」が発足**。持続的活用・地域間連携も重視した里山を含めた総合的な**景観まちづくり**に取り組んでいる。

京都北山やままゆ塾

< 齊藤先生 >  
ヤママユの飼育保護を通じて**生物多様性保全の啓発**とその生息環境となる**北山周辺の里山の空間の保全**につなげること、また京都産**ヤママユの系統維持・保護繁殖**をめざす。子どもの楽園と連携して、ヤママユ飼育体験や昆虫観察等の**プログラム・学習会を実施**。松ヶ崎小学校でも**環境学習**を行っている。

炭づくり  
材の循環

京都精華大学

< 板倉先生・小椋先生 >  
本格的炭窯を学内に所有し、昨年より、宝の森をつくる会が進める「**ナラ枯れ木や倒木を活用した炭作り**」をサポート。里山林の活用・再生の必要な**施設・技術協力**を行っている。**シンポジウムでの講師協力**など、人材・情報共有も行っている。

京都学園大学

< 森本先生・丹羽先生 >  
**京都宝の森をつくる会と連携**して、**市民調査のサポート**を開始。学生の実習などとも連動させながら**データの蓄積や解析**などを進めつつある。市民と大学、研究者の連携を広げ、**市民力をアップ**。協働による**植生保全、森林再生の実現**に向け、継続性をもったかかわりを始めている。



データ共有

一般社団法人日本生態学会生態系管理専門委員会 < 鎌田先生 >

宝が池で調査・研究を行っている研究者およびグループメンバーも多く所属する学会。**2014年9月に全国的にも問題のシカ、ナラ枯れ、マツ枯れの問題と荒廃する森の再生をテーマに府立大学にて講習会を実施**(府立大学・緑化協会と共催)。エクスカッションでは**京都大学の演習林、宝が池から深泥池の森・池を巡り**、現状と問題や研究者・市民協働による活動の成果を共有。今後の森林再生の行動をバックアップしている。



まちづくり  
の連携

環境学習

小学校  
学校運営  
協議会

京都市  
左京区役所

わきの山プロジェクト

( 明德小学校 P T A ・アジェンダ 2 1 )  
宝が池の北東にある**小規模な雑木林**が活動地(市所有地)。**学校観察林(わきの山)**という里山の保全を中心として活動をおこなっている。京都環境コミュニティ活動(KESC)プロジェクトのチームの一つとして発足。**里山の勉強会開催、府や市の助成金の取得等「京のアジェンダ21フォーラム」と連携**しながら活動を進めている。地域企業および地域の住民にも広がり、学校運営協議会の中に「**わきの山推進委員会**」が発足し、学校、地域、地域企業との連携による、「**わきの山環境学習と地域連携**」として持続的に続けられる活動となっている。運営の中心メンバーが楽しくしていること、また相談できる場(アジェンダ)があったことは「**協働**」連携へのポイント!  
(資料・展示参照)



京都大学 農業研究科

森林管理 < 柴田先生 >

1980年代後半、里山林放置による植生遷移が宝が池の森でも進み、常緑化や高密度化によりあぶない、入れない暗いなど機能が景観の低下が問題となる。その際、**再管理(里山管理)作業により、ツツジ類をはじめとする自生種の花木の回復**を進めた。近年生じている問題においても、**人の関わりの重要性**を強く指摘。宝が池の森に隣接する京大演習林など各所での実践を踏まえて、今後の宝が池における市民協働による森の管理にむけ、**今年度より学習会や講習会**に関わる。



野生生物の保護管理 < 高柳先生 >

シカの増加に伴う被害拡大が社会的問題にもなる中、各所でシカによる影響を調査、その対策に取り組んでいる。被害が拡大する宝が池においても、**2014年より学習会、シンポジウムに関わり**、正確な知識・情報の把握と発信の重要性・手法、対策の考え方・技術など、**シカとのかかわり、対策について総合的に指導**。学生の研究を通じ状況把握や解析を実施中。**実習の場としても活用しながら最新情報を収集、関係者との共有**を常にはかっている。

